

平成26年度 自己評価【分掌等】

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

	重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準			達成値	評価	反省及び次年度への課題等	学校関係者評価
				A	B	C				
総務部	PTA活動の充実	月報やPTA会報の発行により、保護者への情報発信を行う。	月報やPTA会報についての保護者アンケートでのA・Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	84.7%	A	月報4回、PTA会報2回発行。月報の名称変更と編集用ソフトの導入を検討。	A
	広報活動の強化	ホームページ更新の担当者を決めて更新回数を増やす。	ホームページに関する保護者アンケートでのA・Bの割合	A 80%	B 70%	C 60%	92.4%	A	更新回数は大幅に増加した。今後は更新ができる人を増やす取組を検討する。	A
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒アンケートで遅刻0に向けて努力したと回答した生徒・教職員の割合	A 90%	B 80%	C 70%	92.5%	A	全生徒の48%が皆勤である。特定の生徒の遅刻が目立つようになってきている。個人指導を徹底していく必要がある。	A
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。	生徒アンケートで資格取得に向けて熱心に取り組んだと答えた生徒の割合。及び今年度取得した資格数が1以上の生徒の割合。	A 90%	B 80%	C 70%	58.3% 65.7%	C	今年度資格を取得した生徒数が216人(65.7%)中には6個以上と答えた者が17人もいた。生徒の意欲が高まってきている。アンケートの実施日以降に農業技術検定等の結果が発表され高い合格率であったので達成値の値は実際はもっと高くなる。今後も各教科、学科で積極的な指導を続けていく。	B
生徒指導部	校外外で積極的に挨拶をさせる	生徒会、風紀委員会と協力し毎朝の挨拶運動を実施するとともに、全校集会などで挨拶指導を行う。	校外外で挨拶ができていたと答えた生徒・教職員の割合。	A 90%	B 80%	C 70%	80.8%	B	毎朝の挨拶運動や全校集会等で取り組んでいるが、継続指導と生徒会での取組を検討する。	B
	生徒の部活動への加入を推進する。	新入生対象に部活動のオリエンテーションを実施。定期的に参加状況を把握し部活動の加入を呼びかける。	全学年の部活に加入している生徒の割合。	A 90%	B 80%	C 70%	90.1%	A	1年生の入部率が96%と高いが、引き続き部活動紹介、全校集会等で呼びかける必要がある。	A
進路指導部	体系的・計画的な進路指導体制の構築	進路ガイダンス・進路ミュージカル・CCP・進路検討会・面接指導(3年生)等が進路について考えること(進路決定に)役立っている。	「進路指導部の取組は役立った」に対してA・Bを回答した生徒・教職員の割合	A 90%	B 80%	C 70%	96.0%	A	概ね良好だが、マンネリ化することなく、新しいものを積極的に取り入れながら、よりよいものにしていくことが必要。	A
	対外テスト(基礎力テスト:全学年)・一般常識課題テスト(2年次より)への取り組みを活性化する。	進路検討会は生徒理解に役立ち、進路決定を促している。	「進路検討会は教員の生徒理解に役立ち、進路決定を促している」に対してA・Bの回答をした教職員の割合	A 80%	B 70%	C 60%	88.0%	A	多くの人が参加することによって生徒を多方面からみることができるので、今後とも参加を促していく必要がある。	A
健康相談部	健康状態の把握と適切な対応	健康観察、健康診断、諸検査の結果や日常の相談から適切な対応を行う。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 80%	B 70%	C 60%	80.00%	A	不登校生徒の未然防止のために主に健康観察と相談活動に力を入れた。次年度も続いて教職員との連携を密に取り組みたい。	A
	教育相談活動の充実	スクールカウンセラー、ケース会議等相談活動を通して適切な対応に努める。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A 80%	B 70%	C 60%	78.70%	B	スクールカウンセラーについてはこまめな呼びかけや報告ができ成果があった。教育相談活動では活動内容の周知や関係者との連絡を今以上に密にしていきたい。	B

図書研修部	授業や研究に役立つ資料の選定・収集に努める。	出張図書館や図書館ニュースを通じて、図書館の資料を紹介する。図書館運営委員会を通じて、先生方のリクエストに応える。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C	93.00%	A	図書館からの情報発信を活発にして図書館に眠っている資料をもっと活用してもらえるようにしていきたい。	A
	生徒の豊かな感性を育む読書指導を行う。	図書委員会主催のイベントや図書館ニュースを通じて、生徒の読書活動を支援する。	「図書館の設備や雰囲気は利用しやすい」という生徒アンケートの「A」「B」の割合。	A	B	C				
寮務部	基本的な生活習慣を身に着ける指導を行う。	あいさつ、時間厳守について毎日できたかどうか。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C	70.00%	B	なかなか起きられない寮生が時たまいた。	B
	寮内外の環境整備を行う。	寮内外の定期的な掃除を行うことができたかどうか。	教職員アンケートにおける「A」「B」の割合。	A	B	C				
農場部	安全・衛生管理の徹底	①定期的な点検 ②安全・衛生教育の徹底 ③ふさわしい頭髪・服装指導	「安全・衛生管理」を問うアンケートに対する「教職員」「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	教職員 95.2 生徒 96.3	A	ほぼ達成できたが、この目標については限りなく100%に近づけるようにしたい。	A
	環境整備の徹底	①役割分担の明確化 ②定期的な点検 ③適切な環境整備計画の立案	「環境整備」を問うアンケートに対する「教職員」「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C				
植物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	①92.4% ②92.6% 平均92.5%	A	数字はよくなっているように、じょじょに向上心が見られるようになった。継続した指導をしていきたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価18」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C				
環境科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	①92.6% ②96.2% (平均) 94.4%	A	自己評価の数字は良いが、実体は時間厳守とはいえない。今後とも継続的に指導する必要がある。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価18」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C				
食品科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C	①94.9% ②95.7% (平均) 95.3%	A	全学年ともに目標達成感が高いが、あくまで生徒の自己評価なので、教員側の指導の継続が必要である。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価18」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの回答割合	A	B	C				
動物科学科	自己管理能力の育成	①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導	「自己評価10、12」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの割合	A	B	C	①92.9% ②92.4% (平均) 92.6%	A	目標達成感も高く農場当番や実習前は10分前に集合できている。継続的な指導を行いたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導	「自己評価6」「学校評価18」を問うアンケートに対する「生徒」のA・Bの割合	A	B	C				

一年部	学校生活の充実	全員が所属感を持ち学校生活を送れるよう働きかける	10月実施のアンケートQUの満足群の割合の平均値	A 60%	B 50%	C 40%	54%	B	6月(56%)→10月(54%)であった。授業、実習で要求する度合いも高くなり、徐々に高校生活に順応しようとした結果と捉える。主体的に自分の事として活動させる工夫をもう少し考えさせるべきだった。	B
	基礎学力の向上	マナトレ10級から7級を全員が合格できるように指導する	マナトレ10級から7級を合格した生徒の割合	A 80%	B 75%	C 70%	98.7%	A	国(100%)、数(98%)、英(98%)という結果であった。国は全級で全員合格、数学は7級1人、8級4人、9級2人、10級3人不合格、英語は7級4人、8級2人、9級3人、10級1人の不合格であった。追試、補習など粘り強く行った効果があったと考えられる。	A
二年部	自己理解・職業理解を促し、進路に対する自覚を高める	インターンシップやチャレンジショップ、県外視察研修等の効果的な実施	研修旅行・チャレンジショップ・インターンシップの取り組みについて「意義がある」と回答した生徒の割合	A 90%	B 80%	C 70%	96%※	A	※達成値は研修旅行・チャレンジショップ・インターンシップ等を平均したものの所期の目的は充分達したと思われるが、更に内容の充実・改善を図っていきたい。	A
	基礎学力の定着・向上に努める	総合学習でのマナトレ(6級～4級)への取り組み	マナトレの認定テストに最終的に合格した生徒の割合	A 80%	B 70%	C 60%	83% ※各級まとめテストに1回で合格した者の割合	A※	まだ認定テスト未実施のため評価は難しいが、約60%の生徒が「マナトレに十分に取り組み基礎力がついた」と回答しており、提出物の状況から見ても生徒の意識向上に一定の効果があったと考えられる。	A
三年部	最高学年としての自覚と責任ある態度の育成	・諸行事において積極的な役割を果たす ・プロジェクト学習等での充実した活動	「授業や学習などで発言、発表や議論が十分できた」と回答した生徒の割合	A 80%	B 70%	C 60%	59.80%	C	諸行事・実習などでの活動には一定の評価ができるが、普通教科を中心に受け身の部分が払しょくできる授業のあり方について検討が必要か。	C
	希望進路の実現に向けた主体的な取り組みを促す	・進路諸行事への積極的な参加 ・資格取得への意欲的な取り組み	卒業時点での進路決定の割合	A 100%	B 98%	C 95%	99.24%	B	学校あがりの支援体制により生徒の前向きな取り組みが引き出されており次年度も継続してほしい。	B